

日韓合同授業研究会会報

第103号

2015年4月24日発行

第22回交流会潮来大会に向けて

安藤

今年度私は久しぶりに日本史を担当することになった。

現在の勤務校でも、前任校でも日本史Bは山川出版社の詳説日本史Bという教科書を使用している。その教科書に関東大震災の混乱というコラムがある（以下 新版 2016年印刷 P.331）

（前略）「関東大震災後に発生した朝鮮人・中国人に対する殺傷事件は、自然災害が人為的な殺傷行為を大規模に誘発した例として日本の災害史上、他に類を見ないものであった。流言により、多くの朝鮮人が殺傷された背景としては、日本の植民地支配に対する抵抗運動への恐怖心と、民族的な差別意識があったとみられる。9月4日夜、亀戸警察署構内で警備に当たっていた軍隊によって社会主義者10名が殺害され、16日には憲兵により、大杉栄と伊藤野枝、大杉の甥が殺害された。市民・警察・軍がともに例外的にとはいえ切れない規模で武力や暴力を行使したことがわかる。」

今までの版に比べ、まわりくどく、わかりにくい記述になったと感じる。

旧版の記述を見てみよう。（旧版詳説日本史B・改訂版2013年印刷 P.310）

（前略）「地震と火災の大混乱で、「朝鮮人が暴動をおこした、放火した。」との流言がとびかい、政府も戒厳令を公布して軍隊・警察を動員したほか、住民に自警団をつくらせた。関東全域で徹底的な「朝鮮人狩り」がおこなわれ、恐怖心にかられた民衆や一部の官憲によって、数千人の朝鮮人と約200人の中国人が殺害された。亀戸署内では軍隊によって10人の労働運動指導者が殺され、憲兵によって大杉栄が殺され、社会主義運動は大打撃をこうむった。」

改訂後には、虐殺の人数記述がなくなり、「自警団」という言葉も消えている。高校生がこれを読んで、何をどのように理解せよというのか。新版にある「市民・警察・軍がともに例外的にとはいえ切れない規模で武力や暴力を行使した。」という記述は、だれがどのようにおこしたのか、官憲の関与についての記述

目次

第22回交流会潮来大会に向けて	1
第22回交流会案内	4
1982年『関東大震災時における朝鮮人虐殺（荒川河川敷）』の学習	5
学習会報告	11
次回学習会案内	12

がぼかされてしまったことがわかる。この文章からは、私たちが、この夏のFWで計画している、千葉県における関東大震災と朝鮮人虐殺の実相が何も記述に反映されていない。暗澹とした気持ちになる。最近では、「虐殺はなかった。」とか、逆に「朝鮮人が暴動をおこした」とか、根拠ない話を真実であるかのように語り「記録を作り替えられることで、忘れさせる。」ことまで世の中に出回っている。私たちはこのようなことに、十分に注意を払いながら、真実を見極める努力をしないといけない。そのためにも千葉のフィールドワークでしっかり学ばなければならないと思う。

去る3月26日、藤田・佐藤・吉川と私は、船橋駅にて、千葉県における関東大震災の朝鮮人虐殺の調査、発掘、追悼を行ってきた、平形千恵子さんとお会いした。FWの下見として、船橋、八千代の朝鮮人虐殺に関連する場所を案内していただくためである。

平形さんにまず西船橋の行田団地に案内していただいた。車が走り出して、すぐ天沼公園の前を通ると、平形さんは「北総鉄道（現東武野田線）建設に従事した朝鮮人が、船橋送信所に連れてこられたが、受け入れを拒否され、船橋警察に連れて行かれる途中、このあたりで住民に殺された。」とおっしゃられた。しかし今では当時とすっかり変わっていて、そのような惨劇を感じさせる物は何もない。一行はまもなく、現在は行田団地になっている、旧海軍船橋送信所跡に到着した。送信所時代に作られた円周道路の内側にはいり、丁度円の中心付近にあたるスーパーに車を置いた。少し歩くと円周内を東西に切る形の細長い公園に出てきた。

公園の中に大きな石碑がある。旧船橋送信所の記念塔で、敗戦後作られたという。石碑の下には船橋送信所跡の歩みが刻まれている。しかしここが、関東大震災の時に東京で朝鮮人が虐殺される一端を作った場所であることを示唆する文言はひとこともなかった。この地が、かつて海軍の軍事施設だったことも、小学校などに残っている、「海軍」という境界柱を除いて、思い出されるものはない。消されてゆく歴史を感じた。この後、馬込霊園に向かう。ここには事件のあとに建立された2つの慰霊碑がある。1つは「法界無縁塔」とあり、虐殺現場の近くに建てられたものが、後にこちらに移設されたものである。もう一つは大きなもので、戦後在日朝鮮人の方々の手によって作られたものである。消されようとする歴史を必死に伝えようとしている。

午後は八千代に向かう。八千代台の高津観音寺に到着する。ここには習志野基地から地域住民に引き渡され、殺され、埋められてしまった朝鮮人の人骨を、平形さんらが発掘し、追悼したところで、現在ではここにも大きな慰霊塔があり、故国から送られた石材を元に建立されたという。この寺の近く、実際に埋められていた、「なぎの原」という場所に徒歩で向かう。そこは周囲を住宅で囲まれた空き地で、以前は埋められていた場所を示していたが、現在は伐採された木の幹の一部が残っている場所である。平形さんの話から発掘の時のご苦労が



感じられるが、本当に（慰霊を示す物が）何もないので、藤田先生のいうとおり、韓国人がこれを見たらショックを受けるだろうと思う。高津観音寺から車で少し進み、萱田地区にはいる。ここも現在はゆりのき台といい、ここを通る東葉高速鉄道が地下鉄東西線を介して、都心と直結していて、ますます人口増加している場所に隣接している。向かった長福寺にはこの住宅地造成の際に墓地の墓をここに移動した時に、かつてその墓地にうめられたままになっていた朝鮮人の供養碑を個人が建立したものがある。石碑には「至心供養塔」と刻まれ、どういう供養碑なのか、すこしばかされているようにも感じるが、虐殺を目撃し、何十年も心の中でやるせない気持ちを持ち続けていた人の建立と聞くと、この言葉が精一杯の表現なのかもしれない。虐殺事件の当事者（にされてしまった）この地区の人々の心情を思いはかるばかりである。最後にここから少し離れた市民会館裏の墓地に向かう。この墓地にも虐殺された朝鮮人が埋められたはずなのだが、はっきりとした場所がつかめず、おおよその位置に「無縁供養塔」が建てられている。やはりこの文字だけでは、朝鮮人の供養塔かは判らないが、石碑の後ろに置かれた卒塔婆には「関東大震災朝鮮人犠牲者」という文字が入っている。ここでも追悼の有り様の複雑さを想像せざるを得なかった。

FWの下見を終えて思ったことは、「記憶することの難しさ。」であり「忘れることの簡単さと難しさ。」である。時が経ると、人は簡単に過去のことを忘れてしまう。しかし一方で当事者は忘れようにも忘れられない。このような複雑な状況を国家権力は自分達の都合の良いように書き換えてしまうのかもしれない。

この文章を書いているときに、韓国セウォル号事故2周年を迎えた。韓国の教育部では、この時期に「ドクト」の授業をし、撮影して送るようにと学校に指示していると聞いて驚く。国家権力は自分達に都合の悪いことを、覆い隠そうとする。この姿勢は日本も韓国も変わらないのであろう。そして韓国の先生方が信念を貫こうとして、大変ご苦労されているというメールも目にした。みなさんお体に気をつけていただきたい、そしてまた笑顔でお会いしたいと切に願うばかりである。

そしてその直前におきた、熊本・大分の群発地震・震災でも、さまざまなデマがとびかっているという。災害は一番立場の弱い人に牙をむくことをしておかなければならない。

このような状況下の中、今夏の交流会では、私のふるさと、茨城、潮来の地で「しっかりと記憶するために学ぶ。」姿勢をもち、大いに論議し、新たな結実があることを願いたい。そして韓国・朝鮮と日本の旧知と、未知の友人の出会い為に頑張りたい。



第22回交流会潮来大会

「記憶されない歴史は繰り返される。

～関東大震災から～」

「朝鮮人死ね」という言葉が許される時代。熊本の震災ですぐにSNSに関東大震災におけるデマをまねた書き込みがされる時代。地震を緊急事態条項につなげようとする時代。日韓の歴史を未来につなげるために、私たちは隠された歴史と向かい合いたい。

日時 7月29日(金)から8月1日(月)

場所 茨城県潮来市(詳細はお問い合わせください)

日程(案)

7月29日(金)	13:00	日本側参加者成田集合
	14:10	空と歴史の博物館見学
	16:30	ホテル着
	17:30	開会式
	18:00	夕食
	19:20	DVD「隠された爪痕 払い下げられた朝鮮人」上映
	21:00	国別ミーティング
7月30日(土)	8:30	フィールドワーク 習志野 朝鮮人虐殺関連遺跡 八千代 高津観音 馬籠霊園 なぎの原 など
	17:00	ホテル着
7月31日(日)	9:00	全体会 授業報告
	12:00	昼食
	13:00	全体会 授業報告
	18:30	レセプション
	21:00	懇親会
8月1日(月)	9:00	全体会
	11:30	閉会式
	12:00	昼食 屋形船
	14:30	ホテル発

会費 35,000円程度の予定 学生割引あり。(参加者は3,000円の会費納入をお願いします。)
部分参加は、実費徴収。現地までの会費は別途自己負担。

日韓の教育・歴史・文化などに関心がある方はどなたでも参加できます。
ぜひご参加ください。

メール larribee1991@yahoo.co.jp (藤田) FAX 042-375-0341 (佐藤)

1982年『関東大震災時における朝鮮人虐殺（荒川河川敷）』の学習

雁部

1 はじめに

私が、「荒川」を学習材として取り上げるようになったのは、1982年に、学校近くの荒川河川敷で行われた「関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨試掘」の見学からです。

この発掘現場で、私の学校の子どもたちと、朝鮮学校の子どもたちが出会いました。こちらの子どもたちが、楽しそうに話しながら見学しているのにたいして、朝鮮学校の子どもたちは、沈痛な面持ちで、発掘現場を見つめていました。

私には苦い経験があります。1966年この学校に新卒として赴任し、担任した学級に、在日朝鮮人のTさんがいたのですが、私は全く朝鮮人であることに気が付きませんでした。お父さんが亡くなり、お葬式で初めて知りました。お父さんは、強制連行で日本に連れてこられ、苦勞して亡くなったことを追悼の言葉で知ったのです。私はこの子の生活を理解することなく過ごしてきたことを恥じました。日朝の歴史や在日コリアンの法的地位など、手あたり次第に読みましたが、この子に民族のアイデンティティを育む学習はできないままに卒業させてしまいました。

後に、本名で民族衣装での結婚式に招いてくれた彼は、「大丈夫、親戚のお兄さんに教えてもらっていたから」と、私を慰めてくれましたが、ずっと心に疼きを感じていました。

Tさんを知ってから、朝鮮に関わる学習にこつこつ取り組んできましたが、教科書にない内容を取り上げるのは大変でした。それでも実践しなければと思ったのは、この学校に在籍する在日コリアンの子たちの存在でした。民族を理由にしたいじめがあり、子ども親も揺らいでいました。この子たちに民族的アイデンティティを持ってほしいと願いました。また、日本の子たちが朝鮮との歴史的な事実を知ることこそ、人として生きていく上で欠かせないことだと思いました。

2 見学に先立って

見学に先立って、事前に授業を3時間設定しました。1時間は、今回の発掘に関する新聞記事を読み合わせ、関東大震災時の朝鮮人虐殺の事実を知りました。次に、全国解放教育研究会編『にんげん』5年の「明日から本名で生きよう」を教材に、朝鮮人がたくさん日本に住んでいる事実と、朝鮮人としてあたりまえに生きていくことさえ妨げられている状況を学習しました。なぜ朝鮮人が日本に住み、日本語を話し、日本人のような名前をもっているのか。主人公重広（チュンガン）の民族的自覚への推移を中心に捉えようと思いました。子どもたちにとって、初めての朝鮮にかかわる授業でした。2時間しかとれないこともあって、歴史的な事実をきちんと押さえることなく、重広と彼をとりまく日本人の意識の読み取りがやっとの授業内容になってしまいました。



3 発掘現場の見学の感想文から

事前授業は中途半端なままでしたが、9月7日担任している5年の学級の子どもたちと共に、発掘現場を見学しました。折しも、朝鮮学校の小中学生が慰霊に訪れており、学級の子どもたちと、すれちがうように帰っていきました。朝鮮の子どもたちのきりっとした姿勢と沈んだ表情は、学級の子どもたちの明るいざわめきと対照的でした。発掘中の穴のそばで、会の下嶋哲朗さんから虐殺の事実や発掘の意味など話を聞くことができました。

—日本学校の子どもたちの感想文—

日本の子どもたちは、隣り近所に朝鮮の人々が暮らしており、地域に朝鮮学校があるにもかかわらず、自分たちとは関係ないもの、むしろ触れてはならないものにとらえているようです。

朝鮮学校の児童が、入学当初から、なぜ日本に住んでいるのかという、日朝の歴史認識の教育を受けているのに対し、日本の子どもたちは学校で教えられていません。

この溝の深さは、「明日から本名で生きよう」の重広に対して、「日本人ならよかったのに」とか、「朝鮮に帰ってあげたい」という感想をもつことにも表れています。「日本人なら」という言葉が、「朝鮮人」を否定していることにつながることに気が付かないのです。

家庭や地域での、朝鮮人に対する負の印象を反映してか、子どもたちは、日常生活や遊びの中に、無意識に差別をとり込んでいます。

□いつも、朝鮮学校の中学生くらいの人たちが帰るとき、家の前を通ります。そのとき、私はじゅくへ行くときなので会います。前は、その人たちに会うのがこわくて、もう一回家に入って、ベランダから行くのを見て、行ったらまた、外に出てじゅくに行っていました。

□朝鮮学校の人たちは、日本人のことをわるいとおしえている。

□先生が『バカチョンカメラのチョンは、朝鮮人のことです。』と言った時、始めてそのことが分かったのでびっくりしました。そんなに朝鮮人の事を、日本人はばかにしていたとはしりませんでした。

□重広は、弱虫だと思います。どうしてかというと、朝鮮人だということを、こそこそかくして。私は、かくさなくてもいいと思います。だって、みんな人間どうしだから。

□どうせこうかいするのだから、殺さなければよかったのになあと思いました。

□ぼくは、なぜ朝鮮人をころしたのかわかりました。でも、ころされた朝鮮人が日本人だったらどうなるかわかりません。こんどからは、朝鮮人をころさないでください。

以上のように、子どもたちの差別意識は根深いものがあります。しかし、発掘現場を見学した子どもたちの中に、問題を自分に引き寄せて捉えようとしている姿もみえます。

◇私は、テレビ局の人や、新聞社の人を見て思いました。(あの人たちはどういう気持ちで写真をとったり、記事をかいたりしているんだろうな、ただ仕事としてやっているのかな、それとももっとちがう気持ちかな) って。

◇私は、半分くらいうわついた気持ちでした。口では言えないけどそういう気持ちでした。友達が「テレビにうつるかな」と言うように、私も半分くらいそんなような気持ちだったと思います。だって私は、「学校はどこなの」と聞かれた時、「はい、〇〇小学校です」と、ウキウキした気持ちでいってしまったからです。私は今思えばバカな私だったと思います。

◇夏休みにいとこ(中三の男子)があそびに来ました。わたしは、「荒川で発掘やってるの知ってる。お兄ちゃん」ときくと、「うん知ってる」「かわいそうだね」というと、「でもいっしょに歩いたりするとき、気をつけな」と言った。わたしは、「なんで?」と聞くと、「チョウセンは、団体力が強いから、ともみなんかやられちゃうよ」といったので、わたしはおこった。大声でおこっ

た。「チョウセン人って、かわいそうだよ。もしお兄ちゃんがチョウセン人で発掘がはじまったらどうする」と、カッとおこった。お兄ちゃんは、「わかった。わかったからチョコレートかいにいこ」。わたしは、お兄ちゃんは、分っていないような気がした。

◇あとから（かわいそうなことをした）それだけじゃすまない。人間のいのちはひとつしかないのに、かわいそうだといったからって、そのころされた人が、生きかえるわけじゃない。

◇ぼくは、殺したら殺人なのに、けいさつはなぜつかまえなかったんだ。ひいきだと思えます。

◇ふかくあなをほったのに、なぜ朝鮮の人のほねが見つからなかったんだらう。カメラマンの人が、コンクリート（土手）の所にうまっているかもしれないと言い、ぼくたちは、「なんてコンクリートをこわさないの」と言ったら、「けいさつがコンクリートをこわしていいと言わないとコンクリートはこわしちゃいけない。」と言った。ぼくは、朝鮮人の発掘をするから、こわしてもいいんじゃないかと思った。

◇先生が言ってて思ったんだけど、うちにいるおじいちゃんは、七二、三才だと思っただけど、朝鮮の人たちのデマを言ったりしたのは、59年前だから、うちのおじいちゃんは十三、四才だから、朝鮮の人たちがころされたのを見ていたのか、あるいは、おじいちゃんもころしてしまったかもしれない。

◇その子のおじいさんが殺される前に、こっそり家に帰って天じょううらにかくれて助かったと聞いた。ぼくは、その子のおじいさんがいなくなったら朝鮮人の友達がいなかったらう。

発掘を見学して 5年 K

私は今まで、朝鮮人をきらっていました。でも今は、朝鮮の人と仲よく遊んだり、話したりできるようになりました。朝鮮の人が、日本人と同じように見えてきたからです。

私はおばあちゃんに59年前のことをいろいろ聞きました。昔の日本人たちは、やばんで人を殺すのも平気だったんじゃないかと思えます。おばあちゃんの話によると、朝鮮人がみんな手をゆわかれて、荒川につれていかれて、竹やりで殺されたということです。他に、おばあちゃんたちが原っぱにひなんしている時、ある一人の日本人の人がトイレに入ったら、そのトイレに朝鮮人が入っているとだれかが言って、軍たいの人たちがじゅうや竹やりで殺そうとしたそうです。でもトイレの中の人が「日本人だ。助けてくれ。」とさげんで助けられたそうです。だから、トイレもろくろく入ってられないで、外でしたそうです。59年前は、朝鮮人もきっとおそろしかったと思うけど、日本人もおそろしかったと思えます。いつまちがえられて殺されるかわからないんだから・・・

私のお母さんはおばあちゃんの話聞いて、目と鼻をまっ赤にしていました。私はその話を聞いて、自分のことのように思えてきました。

9月7日、火曜日、私たち5年生と3年生は、荒川でやっている朝鮮人の発掘を見に行きました。荒川にはテレビ局の人や荒川の近くの人たちが来ていました。朝鮮学校の子たちも来ていました。みんなは、「わあ。朝鮮学校の子だあ。」と言っていま



した。私は、(いけないなあ) と思いました。だって朝鮮の子たちは、おじさんやおばさんがどんな形でうめられたのか見に来たんだからいいと思います。悪い方は、言ったこたちだと思います。私たち5年生は下においていて穴の深さを見ました。ほってもほっても出てこないようでした。そして、下嶋さんという人が59年前の八広の人のことを話してくれました。私はあとから思いました。(朝鮮の人たちは、どんな思いだったろうな。日本人を殺したいくらいにくんだろうな) と。

私はテレビ局の人や新聞記者の人を見て思いました。(あの人たちはどういう気持ちで写真をとったり、記事をかいたりしているんだろうな。ただ仕事としてやっているのかな、それとももっとちがう気持ちかな) つて。

私は、半分くらいわついた気持ちでした。口では言えないけどそういう気持ちでした。友達が「テレビにうつるかな。」と言うように、私も半分くらいそんなような気持ちだったと思います。だって私は、「学校はどこなの」と聞かれた時、「はい、〇〇小学校です」とウキウキした気持ちでいってしまったからです。私は今思えばバカな私だったと思います。

子どもたちの感想文を読みつつ、朝鮮との歴史をきちんと学習する必要があることを痛感します。学級の子どもたちに、朝鮮の子どもたちのことを知ろうとして欲しい。朝鮮の子どもを知ろうとすることは、自分たちがどのような大人になっていくかを考える過程でもあるのです。

一発掘現場の見学の感想文 朝鮮学校の子どもたち一

「発掘の会」のなかで、見学の場ですれちがった朝鮮学校の子どもたちと、発掘現場での感想文を交換しあうことができました。

東京朝鮮第一初中級学校 6年 R

私たち、東京朝鮮第一初中級学校の6年と担任の先生たちは、去る9月7日火よう日に、荒川土手に行きました。それは、私たちが、教科書でも習ったからでもあるし、日本人が、実際にあった歴史を変えようとしているから、それを変えないように、見に行ったようでもありました。見に行くときゅう私たちは、バスの中で笑っていました。それは、自分たちが、どこへ行くかわからなかったみたいでした。私たちは、むかしあったことを、実際に、見に行くときゅうで、バスの中で笑ったり、ふざけたりしました。しんけん、考えなければならなかったのです。

私たちは、その河川敷へ行ってからは、笑う人もいなかったし、ふざける人もいませんでした。

それは、私たちが、いままでに そのけいけんをしたことが、なかったからだし、見に行ったこともなかったからです。

私は、その日の夜、ねむれなかったです。それは、私たちのおじいさん、おばあさんたちがうまってるかもしれなかったから それを 思いだしたら、ねむたくてもねれずに、なみだがほほにこぼれそうでした。それだけではありません。日本の学校に、かよってる人たちも見に行きました。そこで、私たちが、しんけんに乗ってる時、日本学校の人たちは、笑ったり、ふざけたりしていました。それは、自分のおじいさん、おばあさんたちが、そういう目にあつてこないからだし、自分たちは、朝鮮人とは、かんけいがないと思ったからだと思は、思いました。その中でも、しんけんになった子もいました。なぜか、それは、私たちと、同じ心でいたからだと思は、思いました。

これから、なにがあるかわかりません。私は、大正12年、9月1日があつたことは、けしてわすれません。日本人が、朝鮮人を、虐殺したことを、なにがあつても私は、このことをわすれません。このことを、日本人にも、やらせたい。私たちの先祖をかえしてもらいたい。もう、このことは、あつてはならない。ぜったいあつてはならないと思つて、この日 私はねた。

感想文 東京朝鮮第一初中級学校 6年 T

9月ごろ、私たちのクラスは、関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し慰霊する作業を見に行きました。私は、そこで日本人のおじさんたちが、虐殺された朝鮮人の遺骨をさがしているのを見て、このおじさん、おばさんたちが、自分の先祖がした事を本当にくやんでいる事を知りました。また、その仕事をするのに、お金がたぐさにかかると、そのおじさんたちは、自分が日本人なのにそんな事までするのかと 思いました。私たちが 荒川土手に行った時、とても、親切にしてくれました。

私たちが バスに乗って、土手にきてみたら、もう、そこには、とても大きな 穴を掘っているのを見ました。その後、クラスの友だちが 穴のまわりに立ち、代表が 花束をなげたしゅん間、私は、当時 朝鮮人たちが、日本人にとても いやしめられて、地震の時、警察までが 朝鮮人をいためつけた事を考えました。

私たちは、2学期の始めに、「日本語」の課題で、関東大震災について、初めてならいました。

そこで、大震災の時、私たちの先祖たちが 日本人に かぞえきれないほど 殺されて あんな土手に 今現在 あの土手にうずもられているのを考えてみました。考えてみると、それは本当に 悲しい事でした。私は、これから、この悲しい先祖のために、もっと 学問を身につけ、祖国に帰りたいと、願っています。

4 朝鮮学校の感想文を読んで

感想文を読んで 5年 I

ぼくは、朝鮮学校の人たちの感想文を読んで、こう思いました。

昔、生きていた朝鮮の人たちが、日本人の手によって、無理やり、殺されて、荒川の土手に、埋められました。その人たちの骨をさがそうと、去年の9月ごろ発掘しましたが、残念な事に骨は、一つも見つかりませんでした。

そして、朝鮮学校の人達は、こんな事をした日本人を、うらんでいる人もいましたし、また、今の日本人は、やさしい人もいるからと言って、あんなひどい事をした、日本人をゆるしてくれる人もいたので、ぼくは、なぜか、ほっとしました。

ぼくは、朝鮮の人達の勉強をするずっと前に、朝鮮学校の前を自転車で通ったら、自転車の後ろに、朝鮮の人が乗って、「乗っけろ。」と言ったので、こわかったから、その人がおりたら、すぐ、行ってしまいました。どうして、こわかったのかと言うと、つまようじでつめの中をさしたり、ナイフで耳の後ろを切ったりすると言う事を、聞いていたからでした。でも、今回の、朝鮮の人達の感想を見たら、そのような人達は、いないようなので、(うわさだけかなあ) と思いました。

朝鮮は、日本のすぐとなりなのに、ぼく達は、朝鮮語をしりません。たまに、朝鮮学校の前を通ると、何か、話し声が聞こえて、きますが、何を言っているのか、さっぱりわかりません。朝鮮人と日本人は、同じような顔をしているのに、言葉がぜんぜん分からないのは、日本の政治が、ぼく達に、朝鮮語を教えないからです。(もう少し、ぼく達に、言葉が分かれば、気持ちに通じあえるのになあと思いました。) そうすれば、多くの日本人が朝鮮語をしり、朝鮮人と日本人が信頼し合い、中よくなるのではないかなあと思いました。

ぼく達、日本人は、同じアジア人なのに、アメリカやヨーロッパの先進国ばかり、つき合っていて、かんじんなアジアの事をあまりよくしりません。だから、もっと、アジアの事をしらなければならぬと思います。

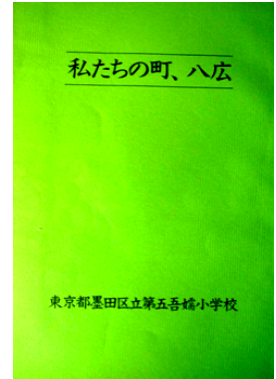
(そうすれば、差別もなくなるし、戦争もなくなり、仲よくできるのではないかなあと思いました。)

5 地域での「関東大震災」の聞き取り活動 一子どもたちと共に一

関東大震災での朝鮮人虐殺は、子どもたちの住むこの町での出来事です。そこで、子どもたちとお祖父さんやお祖母さんたちから、関東大震災の体験談を聞いてこようということになりました。子どもたちのお祖父さんやお祖母さんから話を聞くことにしました。私も地域のお年寄りから、聞き書きをしました。そして、この町であった出来事に突き当たります。子どもたちの住んでいるこの八広の町で、本当に、おじいさんさんやおばあさんたちが、虐殺の現場を見ているということがわかってきたのです。

あるおばあさんのお話です。

「そのころ、学校のあたりは田んぼや蓮田がありましてね。家の前にも田がありましてね。近くの長屋に朝鮮の人が何人か住んでいました。この地震のあと、朝鮮の人が追いかけて、この田に逃げ込んで来ました。私は、子どもだったので、『家の中に入っていなさい。』と言われて、家のなかで小さくなっていたのですが、朝鮮の男の人が、棒でたたき殺されました。死体は、荒川へ運んだんじゃないでしょうか？」



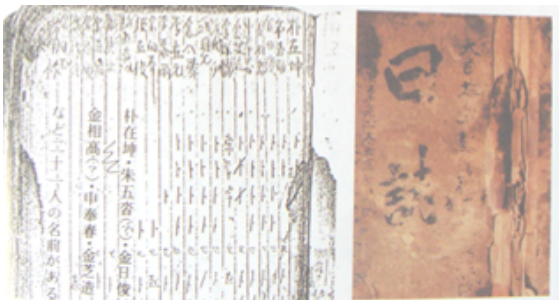
そして、教え子のもう一人のおばあさんのお話です。

「地震があったのは、お昼ちょっと前で、家の中にいたんですよ。すごく揺れてね。母親と外へ出ようにも、戸が開かなくてね。転ぶと起き上がれないくらい揺れてね。裏に回ってなんとか外へ出て、空き地に集まって何日も外で暮らしましたよ。いま考えりゃ、デマだったのだけど、『朝鮮人が井戸に毒を入れた』と信じていました。京成の線路の上に、鉄砲で撃たれた朝鮮の人を何人も見ました。怖かったですね。」

こういう様子を、子どもたちは、おじいちゃんやおばあちゃんたちから聞いて、自分たちの町でどんなことが起こったのかということを知っていきました。このような話は、一件や二件ではなくて、しかも朝鮮人を殺したのが町の人たちであったということにショックを受けました。朝鮮人虐殺のときには、軍隊が出たということや、警察内部での虐殺も、歴史的に明らかになっていますが、多くは、町の人たちが、棒で叩き殺したり、竹槍で突いて殺したのが実態であったと思います。

どうしてこんな事が起こってしまったのか、子どもたちにとって深刻な問題でした。

当時、教科書には、朝鮮・韓国の記述はほとんどありませんでした。朝鮮のことを扱うと、「朝鮮の手先」というような言われ方をされました。そのなかで、この小学校の教職員全員で、子どもたちにわかるような資料を集め、韓国・朝鮮と日本との関わりについて、冊子を作りました。1983年のことです。



この手帳は、荒川放水路の工事監督をしていた人のものです。

ここには、仕事をしていた朝鮮人の名前や、仕事の内容が書かれています。

「恒久平和と国際友好は真実の直視から築かれる」

～明治維新、アジア侵略、関東大震災までさかのぼり、日本の体質にふれ、現在起きている排外主義、ヘイトスピーチを考える。

弁護士 鈴木

鈴木さんは、1938年生まれ。日本弁護士連合会の人権擁護委員長。「子どもの人権」の研究を弁護士登録と同時に着手、弁護士会としての取り組みを提唱してきた。又、中国残留孤児・婦人の帰国実現、外国人学校の高体連大会参加の実現、外国人学校の資格と助成に関する日弁連の意見書を起草し、政府及び国連に報告書を提出。東京及び日本弁護士会の人権擁護委員会に「障害者部会」を設置。

いち早く「子どもの人権」「外国人学校」問題を取り組んでこられた77歳の熱い思いのこもったお話をじっくり聞かせていただいた。

弁護士という立場から、現場での問題解決に取り組んでこられた経験、7歳で敗戦を迎え、自民党の長老の秘書もしたという体験、剣道の修行を通しての感性など、私が日頃あまり接することのない世界や人生の中でつかんだ歴史の真実・思いを語られた。それ故、初めて聞く名前や場面もあり、十分に理解したとは言えないが、現場を踏み、政治の中核にあった方々からの伝聞など、歴史をよりリアルに感じ、客観的に見ることの大切さを気付かされた。戦前の誤り、そして今、戦前になりかねない暗雲立ちこめる中で、私たち一人一人に、人間の尊厳と歴史認識、日本の体質・文化を深く問いかける内容となった。

配付されたレジュメの項目は、以下のとおりだが、お話の流れに沿ってポイントをまとめてみた。又、先生が特に強調された内容は、《 》をつけ、()で注を入れた。

- 1、大震災に見えた日本国の体質
- 2、「国際恒久対立」を必然にする歴史教育の欺瞞
- 3、大戦に至る道-明治維新後の日本の体質-
- 4、輝く未来に向かう道は

*まず、最初に、後継者選びにあたっての剣道の名人と弟子の問答の紹介をとおして、鈴木さんが大切だと思っているのは、理屈ではなく、人間としての《自然な気持ち》であると、野菊を刀剣で切る場面の中で語られた。

*阪神淡路大震災の際、東京朝鮮学校の校長先生方に、神戸にも朝鮮学校があるので「いかがでしたか」と聞いたところ、「やあ、良かった」とまず言われた。校舎や生徒の損傷を聞いたつもりだったが、神戸在住の関係者が学校の庭に炊き出しをしようと集まりキムチ鍋をつくる

と、「大勢が食べに来てくれて良かった」という感覚に驚いた。大変な思いをした関東大震災の記憶もあるだろうに、と思った。日本人の感覚の、我ながら鈍さを感じた。

*東日本大震災の時に、最初に、被災地に急行したのは、原発のことも知っている在日米海軍の艦船。自衛隊は首相の命令がないと出動できない。阪神大震災の際、日本の総理大臣は「なんで、俺の時ばかり災害がおこるのか」とウロウロしていたという。日本政府は、国民を守る義務を自覚しているのか、と思った。

*中国での見聞：新中国成立間もない頃、食料も配給制だった。中国人は週の1日が米か小麦、もう1日はトウモロコシ、あと5日はコーリャンだったのに、残っていた日本人には週の半分、米か小麦を配給してくれた。冬の野菜についても、文革の頃や東北でも同様だった。侵略した頃、土地も建物も日本人には貸しても売ってもいけない、移民も不法滞在者とされていたが、中国人は隣人や親類がいるから助け合える。外国人は助け合える人がいないから当たり前、だと。外国人の食習慣を大切に、優先的に配ることに中国人は不満を言わないかとの質問に、対日問題の中心におられた趙安博先生や残留婦人がこのように話してくれた。日本政府がこのようにしたら、日本人は騒ぎ出すだろう。

*中国の文化・心の決まり：孔子の儒教以前、紀元前770年からの春秋時代に連邦憲法のような「葵丘の盟」がつくられた。その4条には「老人、子ども、旅人に配慮しなさい」とある。心の中に、そういう決まりが伝わってきている。そこからみると、日本は「南方より起こった野蛮人＝新興の楚の国」以上に文化がない国と言われても仕方がないか。「南京の大虐殺」、日本は申し訳ないということがない。世界記憶遺産登録されたことにクレームをつけている。本当は、中国人以上に日本人が考えなければならないのに。そうした変わった考え方が、どうしたわけか伝わっている。

*韓国との問題でいうと、日本政府は、韓国の国民と日本の国民が永久に、決定的に対立することを望んでいる処置しかとっていない。中国に対しても同じこと。何故、日本の国民が韓国の国民とあるいは中国の国民と対立するようなことを一生懸命やるのか。誰の利益になるのか。日本国の利益になるとは到底思えない。誰の利益になるか、ということのを頭の隅に留めておいてもらいたい。まず、絶対、仲良くなれないということは、《日韓併合》ということのを平気で使っている。これは、日本が韓国を併合したんだという言い方ですが、併合というのは、二つ以上の国がそれぞれ自分達の意思で一緒になる、これが併合。だから、日本が併合といっているのは、韓国の希望で日本と一緒になったという意味。韓国に行って、そんなことを考えている人は、おそらく誰もいないだろうと思う。無理矢理に自分の国の領土にしてしまっ、自分の国民としてしまっ支配するというのは、これは「併呑」といって、呑み込むという字を書きます。これは、私が勝手に言っているのではなく、最も優れた外交官といわれる幣原喜重郎も、回顧録のなかで言っている。指揮（乙未事変）をとった三浦公使も「ロシアと一緒に支配するか、併呑、どちらかだ」と言っている。大韓帝国の最後の皇帝・純宗は、子どもの時に王宮に入り込んだ切り込み隊長によってお母さん（閔妃）を殺され、確認までさせられた上、日本と一緒に条約に判を押したことになる。

伊藤博文を暗殺した安重根を、日本はテロリストとして死刑にした。安重根は大韓帝国軍が解散された後、救国をめざす独立義勇軍で働いていた英雄である。閔妃殺しは罪を問われず釈放された。英雄をテロリストという評価をして、絶対に仲良くできるはずがない。

*《慰安婦問題》について、日韓政府間で解決したといわれたが、1ヶ月経っても、韓国側は認めようとはしない。日本政府は、国民に教え込んでその場限りのことで済まそうとする。

*《過去の歴史に学ぼう》と自民党の調査部会が言っているが、「戦犯」については、アメリカに気兼ねがあるから触れないと言っている。洗い出すと、逃れた悪人が出てくることになる。満州事変の張作霖爆殺の真犯人とか。東三省を占領した若槻礼次郎首相は、反対といいながら、軍事予算を国家に認めさせ、中国侵略を進めた。今の自民党には、当時の有力者の生き残りの後継ぎが多い。洗い出すと自分が危ない。安倍首相のおじいさんの岸信介は、元々戦犯となった人。自民党は、吉田茂系の、戦争を推進した政友会の生き残りだ。

*《ヘイトスピーチが横行》しているが、取り締まれば済むということではない。そういうことが横行するという日本の文化というのが問題である。政府はあてにならない。野党は何もしてない。日本の文化の問題として、国民が考えなければならない。

*《南京大虐殺》については、日本は、このことを伏せたい人間は、殺された数が大きすぎると、数に限定してクレームをつけている。一番の問題は、何千人、何万人と中国人の《捕虜を殺している》こと。殺した側・殺された側に正確な記録はない。士官学校の卒業生が戦後、この問題について、できるだけ正確な資料を残さなくてはいけないということで、資料と生き残った人の証言を集めて記録を作っている。それが一番正確だろうと思う。当時、首都南京の一部を「安全区」として軍隊を入れないことにして、20万人位いた。それを南京と間違えて、「人口が20万人なのに20万人も殺したはずがない」と言う説がありますと、テレビでお先棒を担ぐ人間が言っているのを聞いて驚いた。すでに、日本軍が決定的に優勢な状況になっているので、中国軍の兵隊が捕虜になって出てくる。中国司令部そのものが南京を逃げ出している状態。松井石根がその時の日本軍の最高司令官（中支那方面軍軍司令官）であった。戦犯で死刑になった人。彼はどうして、そんな酷いことしたと乗り込んできて、涙を流して叱った、と目撃者から鈴木さんは、聞いている。では、彼が責任を問われる必要がないか、というとそうとはいえない。とにかく、上からの「命令」として、捕虜殺害が行われている。2師団、2万人以上を指揮して占領後、旅団長が捕虜について中央に問い合わせた所、殺せ、という命令だったので、殺害している。師団長は「捕虜はしない方針」と自分で勝手に言っている。普通なら、捕虜は武装解除して釈放しなければならないのに全部殺させてしまう。もっとひどい旅団長の日記には「今までの苦労を思えば兵隊でなくても皆殺しにしたい気持ちになる」と書かれている。事実、その人の部隊はどんどん殺している。日本の主張が絶対通らない決定的理由は、兵隊でなくても殺したいという旅団長の部隊が最後に残っている。虐殺があったことが判った段階でも、配置換え処置のないまま、2万人が南京に残り治安は保てたと本人が言っている。他の部隊は徐州へ向かった。「安全区」（「難民区」）の中の被害は確かに少数だった。

これは、理論の問題ではなく、「しつけ」の問題。具体的資料を残さず、うやむやにしてきたことが問題。

*《虐殺》に関連して。朝鮮の独立を奪う際、日本の



方の記録だけでも 3000 回以上出撃、虐殺したという。義勇兵が殺されている。原 敬が首相、長谷川好道が 2 代目総督の時、「萬歳騒動」や水原の教会での虐殺（1919 年の三一独立運動）があった。後に犬養総理の時に外務大臣になる芳沢謙吉が調査に来ると、英・仏の公使がすぐ乗り込んできて「日本は朝鮮人を皆殺しにするつもりか」と言ったという。原首相に報告、長谷川は帰国させられ、斉藤実が 3 代目朝鮮総督についた。吉田茂は「イギリスにしても、フランスにしても、アメリカにしても、植民地ではみなやったのではないか？何で日本ばかり非難するんだ」とイギリスに行ってまで直接言ったという。

＊《植民地とは何か？》土地に入り込んで産業を興すことで、他国は、強制連行し皆殺ししたことがない。日本は植民地もやったが、むしろ「脱民地」としか言いようがないような労働力の強制連行をやって、これでは、「植民地」兼「脱民地」ではないか。

「旅順」については、日露戦争が有名だが、日清戦争で虐殺があった。日本には、ほとんど伝わっていないが、日本側では敗残兵 4 千人を殺したといわれるが、現地では、民家を乱射し、兵隊も含めて 1 万人が虐殺されたと伝わっている。冬になると、女、子どもの泣き声がすると言われた。その時の指揮官が大山巖。日露戦争で最高指揮官となる。

＊《日本では、捕虜を殺して罪になったものはいない。逆に立場が上がる》長谷川好道も元帥になっている。日露戦争でも、捕虜の扱いで四国での良い例もある一方、乃木さんの隣の第二軍の指揮官・奥 保鞏も多くの死者を出しているが、「全滅しても仕方ない。攻撃しなさい」と部下に言い、「ロシア兵の持つ機関銃も知らず、小銃しかない日本兵を戦わせた」という、田中義一もよく知っているロシア通の人の証言がある。《日本軍は捕虜になれない》《家族が迫害される》これでは、《日本軍の命令は日本人を虐殺している》ことである。これは太平洋戦争でもいえる。捕虜の半数を逃した連隊が一つあった。この連隊は明治政府から冷遇された会津若松の軍であった。

又、《補給を断たれ》、12 万人の軍を 1 万人に減らしたとして、鈴木さんが最も尊敬する軍司令官・中将は無期禁固の刑を受けた後、遺書を書いて自殺した。何故日本に帰って、捕虜になることを認めず、補給が断たれていることを追求しないのかと、問いたいと思った。鈴木さんの知る、その参謀だった人も、慰留に努めたところ、遺書に書かなかったが「中国戦線で、自分は、1 万人以上を殺した。その中国の青年達は自分の国を守るために立ち上がった青年だ。誰がその責任をとるか？」と話されたので、ついにナイフを渡したと語った。その参謀は戦後、自衛隊のトップに近い地位についた信用できる人だ。

虐殺が平気な日本・明治政府を長州と薩摩の一部がつくった。会津は虐殺され、青森の僻地に追われた。邪魔になる人、汚職を批判した江藤新平や西郷は殺され、退けられた。

日本はヘイト問題に本気にならない体質を知る、《国民の方が、ヘイトが当たり前になっている日本の体質を知らなければならない》。

岩倉・木戸・桂の朝鮮侵略から日清戦争、日露戦争、そして中国から手を引かず、日米交渉をせず、満州事変、日中戦争、太平洋戦争の流れとなった。戦艦「大和」「武蔵」を造って、昭和 16 年 12 月に戦争に突入した。

侍従長藤田の回顧録に、天皇は、昭和 20 年 1 月、首相経験者を、個別に呼んで話しを聞いた。皆、「最後の一击をして、講和」と言うのみであった。国民の命、苦しみを考えていない。広田弘毅だけが、侵略によって得たものを返すのが唯一の道と言っている。

＊《日本は古い体質のまま、今日まで来た》

慰安婦の少女像を撤去せよといっても、祖国から連れ出され死んでいった人達のことは消える

ことはない。死んでいるのですから、永久に許される機会はない。

両陛下は、フィリピン訪問で、永久に忘れてはならないと言っている。強い意志で、高齢になられても最後の残された大事な仕事をしたと理解している。侵略をして、被害を受けて殺された人については許す権利もないし、したがって許されるということは永久にない。日本国民がまず、知ることが大事。

＊《現在のアジアの不安・暗雲の張本人は、朝鮮民主主義人民共和国ではなく、日本》

日本の青年も国に尽くしてきた。数字ではなく、被害者一人には、周りの人々がいる。

特に独立を闘った人は、兄弟のところにも親のところにも帰れなかった。治安のためだ。安重根氏は死刑になるとき、お母さんが送った純白の上着を着て、死を迎えたと聞いている。独立を闘った人にも、慰安婦として連れて行かれた人にも、棺も純白の服もない。骨を包んだのは天の雪しかない。

この悲しみを日本が意識できないようでは、永久に黒い雲が払われることはない！多分私が生きている間は、日中、日韓が仲良くなることはありえないと思っている。日本が、「どかせろ」と言わずに、客観的に冷静に考えることができるなら、《道端の野菊一本でも手向けて手を合わせる気持ちがあれば、アジアは明るい光の故郷に戻ることができるのではないか》。あの像を造った人は、少女の人生が奪われたことを思っただけで強調しておられると思う。このことを理解して、立派な花束でなくとも、道端の、大使館の庭の一輪でも手向けられる気持ちになってくれることの方が大きな問題だろうと思う。

【参加者との質疑応答と感想】

Q、日本の中で、このような内容をどう伝えるか？誰の立場に立って、歴史を学ぶか？

A、祖国のため抵抗した韓国・中国の人々への尊敬の念。簡単に理解されることだと思う。

Q、「征韓論と西郷隆盛」等についても、小学校教師として、間違っただけを教えてきた。その他いろいろ教えてもらったが、中国との対立をどう考えたらいいか？

A、尖閣諸島は、元々、中国の軒下。貨幣・財産関連の文字の元の、貝が採れたところ。それが日本の領土なのか。アメリカも支持しているのは、何の根拠があるか。日本では問題になっていないが、中国では徹底して問題になっている。海底資源として、日本が主張していることについて許せないと思っている。自衛隊員が災害出動をしているのを見ると立派な青年達ですよね。私は戦後、その青年達を育てた人を知っている。自衛隊のトップ2になった人。《そうした若い自衛隊員を資源と引き替えに殺す気か、日本政府は。そんなことで戦争を始めてはいけなと言いたい》。日本国民は、知らなければならない。

Q、東京韓国学校から来ました。小学校は日本の学校に通い、日本の歴史を勉強するのが好きです。教科書に深く載っていない部分を詳しく知り、今日はとても勉強になりました。自分の中の価値観も変わったし、今何が問題なのかを考える良い機会になりました。今、日韓関係は悪いが、韓国人学生として今後私たちは何をしたらよいのでしょうか？

A、外国でもきちんと暮らし、本国の人の誇りにされるように、自分の国の国民であることを誇りに思っただけ。私が聞いた中国のハルビン、皇后陛下が言われたフィリピンに残った方のように現地の方から立派だと言われたように。日本の歴史教科書は、完全にウソで固められているので、気をつけて。安重根を悪者にして、伊藤博文を善人としている。根本的にそうになっている。

感想：会津の人が虐殺に加担しないで守ってくれたという話。沖縄では、朝鮮人軍夫を被差別部落の人が守ってくれたと聞いている。中国を守るために死んだ人のために自殺した人の話も心に残った。

Q、フィリピンの抗日ゲリラの像は、被害者であるフィリピン側からも忘れられている。

記憶を風化させないことは、日本人にも韓国人にも大事なことだと思う。慰安婦についての政府間合意では、教科書について何も言わなかった。記述はどうなるか？保障は何もない。

A、同感です。「不可逆的」という言葉、日本政府の発想は、浅ましいという他ない。政府に主導されていたら、ろくな人間が出来ませんから国民が、自分達がよい文化を育てていく。少女の像を造った人の《痛み》、日本人にも痛みの気持ちがあるだろう。文化として伝えていくことが大切。像は壊れても、気持ちを永久に忘れてはいけなく考えることが出来るのが、日本にとっても日本国民にとっても大切だと思っている。

Q、どうしても、聞いて帰りたいことがあります。「ヘイトスピーチの問題」は、同じ日本人として恥づかしい限り。妻達とも話し合っている。やっている人の背景、話しを聞いて、何となくわかったが、やっている人の直接的な意識は何なのか、理解できないので、そういう人達にどうしたらよいか、知りたい。

A、先ほどから話しが出た「不可逆的」、二度と言うなよと政府が言っている。これ自体がヘイトスピーチである。日本の国がおこなったということ、これは否定しようがない。全滅される予定の沖縄で、まるで集められたように彼女たちが行っていることでも明らか。軍隊の許可なしでああいう商売ができない。こういう政府の下ではどんな変なスピーチが起こっても決して不自然ではない。腐った土壌には、黴が生える。だから、私たちが、根本的にそういうものが恥づかしくなるような国民の認識を育てていく必要があるだろう。政府を主導するだけの国民の文化意識を広げていく他ないだろうと考える。
(記録 川辺)

次回学習会

関東大震災における

朝鮮人虐殺

～習志野から現在に問いかける～

講師 田中正敬さん(専修大学)

日時 5月21日(土) 15:00

場所 下記メールアドレス宛にお問い合わせください

larribee1991@yahoo.co.jp

2016年、東日本震災や熊本大分の震災を利用しながら政府は緊急事態条項を憲法改正の前面に立てようとしている。「朝鮮人死ね。」というヘイトを許し、北朝鮮の脅威を強調しながら、朝鮮学校の助成金を減らすその姿は、関東大震災で「朝鮮人が井戸に毒を入れた。」などのデマを流し、民衆に朝鮮人を殺させながら、社会主義者などを殺していったその歴史を思い起こさせるものである。関東大震災時における朝鮮人虐殺を研究しておられる田中先生を迎え、学びを深める機会としたい。

ウリ103号 2015年4月24日
日韓合同授業研究会

事務局連絡先

E-mail larribee1991@yahoo.co.jp